

共に

塩尻市こども教育部男女共同参画・人権課

塩尻市大門七番町4番3号
TEL：(0263) 52-0280 内線3135
FAX：(0263) 54-2705
Eメールアドレス：kyoudou@city.shiojiri.lg.jp

特集

～「防災・復興」に向けての男女共同参画社会～

●女性消防隊へのインタビュー ●高出地区防災取材 ●市民アンケートに見る防災意識

去年は南木曽町の**土石流**、御嶽山の**噴火**、大北地区の**地震**と多くの大規模な自然災害に長野県は見舞われました。今年に入っても、箱根大涌谷や浅間山などの異常な火山活動が現在も続いています。自然災害はいつ起きても不思議ではないのが四季のある温帯気候・火山列島日本です。塩尻市にも、牛伏寺断層が走り、フォッサマグナや東海・南海トラフの大地震の被害予想が出されています。更に、近年の異常気象による降雨や降雪など、たくさんの災害に備えなければなりません。

去年の「豊かな心を育む市民の集い」ではイコールネット仙台の宗片恵美子さんによる「被災地からのメッセージ」～なぜ防災・復興・減災に女性の視点が必要か～の講演があり、「防災・復興」への男女共同参画意識の大切さを再認識しました。そこで、塩尻市における「防災・復興」について、「市民アンケート」に見る意識や地域防災の活動を行っている「奈良井女性消防隊」「高出地区」にインタビューしました。



奈良井女性消防隊の皆さん

隊長 廣田すみ子さん 会計 栗山めぐみさん 副隊長 井出佐恵さん 副隊長 工藤淳子さん 監査 倉田春美さん



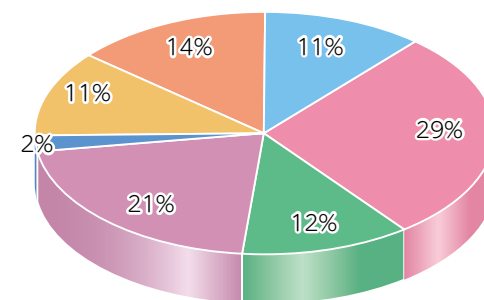
男女共同参画

…H26年度「市民アンケート」に見る防災・復興…

防災意識・活動への男女共同参画の推進

地域防災の男女共同参画(複数回答)

- 1. ※防災会議に女性委員が積極的に登用されている 39人/367人
- 2. ※防災会議に女性委員をもっと登用していくべきである 110人/367人
- 3. 避難所等の運営に、女性や要援護者及び子どもや障がい者などの様々なニーズを配慮している 39人/367人
- 4. 避難所等の運営マニュアルで弱者や男女共同参画への配慮が不足している 68人/367人
- 5. ※防災計画に様々な人々に対応するよう、配慮がされている 23人/367人
- 6. ※防災計画での多様なニーズへの対応が不十分である 43人/367人
- 7. その他(防災計画を良く知らない/分からない/はじめて聞いたなど) 45人/367人



平成26年度「男女共同参画に関する市民アンケート」は市内1000人に実施し、400人から回答をいただきました。今回初めて「防災・復興」に関するアンケートを実施しました。

※防災会議
塩尻市防災会議と消防委員会に3割以上の女性を登用するとしています。
(市34人中7名で20.6%県下第2位H26.4現在)
※防災計画
塩尻市地域防災計画。

「防災・復興」への男女共同参画意識をもつために

- ①各地区の現状は、市内の地区によっては「女性消防隊」があります。広丘地区では「原新田婦人消防隊」「堅石女性消防隊」「野村区婦人消防隊」宗賀地区に「平出女性消防班」榑川地区に「贅川地区女性消防隊」と今回取材させていただいた「奈良井女性消防隊」です。ほとんどの消防隊は消防団と合同の消防訓練を年1回実施していますが、独自の活動や訓練はなかなか行われていないのが現状です。
- ②課題と方向としては、○夜警活動や消火訓練など、独自の活動を充実させたり、組織の強化(明確化)を図りながら災害時における他組織との連携をどのようにしていくかが今後の課題です。○少子高齢化の現状を踏まえ、地域の安全・安心を確保するためにも、塩尻市全地区に女性消防隊組織を構築し、地域の意識向上と絆の構築を推進することも必要課題です。

地区防災計画や行動マニュアル作成時の女性の参加

- ①家庭での備え…災害時の連絡方法や集合場所などを、家族会議で明確にしておく事が望まれている。
- ②地区の防災計画…地区の防災計画の作成に女性の視点を取り入れるため、会議メンバーへの女性委員の確保と各地区の特性を踏まえた実践的な計画への作成が望まれます。
- ③避難所運営…地区ごとのマニュアル作成が急務であり、そこに女性の視点を盛り込み女性が運営に参画することが必要です。
- ④その他地域活動…独居高齢者の見守り支援や児童への挨拶(声掛け)運動などの「絆」づくりを広げて行きたい。

編集後記

災害が世界的規模で生じていて、何処に住んで居ても逃れられない情勢の中、どんな形の有事で有れ、生じる前から男女両方の視点で意見を出し合い、それを形にできる組織と、互いに思いやれる実質的な設備に加え各人の心の準備の大切さを思い起こす機会と成りました。

高出第二公民館に今年中に設置される防災資材・機材格納庫には、プライベートメントも入れられると聞き、女性への配慮が感じられて嬉しく思いました。忙しい世の中になり、隣近所の関係が希薄になって来ている今、災害時に限らず「困った時はお互い様」の精神で地域で支え合うことは、これから益々必要になって来ると感じました。

加藤智子

青木慶子

川上博昭

1kmに350軒にも及ぶ家並みの奈良井宿で、防災の一端を担う女性消防隊員たちが法被の鮮やかな色合いとともに眩しく見えました。生活する上で不便な点もあると思うのですが、この街並みをみんなで守っていこうと言う強い連帯意識を話の中に感じました。

赤羽すえみ

相談案内

♡お気軽にご相談ください♡

♡塩尻市女性相談【面接相談は要予約】月～金0263-54-0783【電話相談・面接相談】月～金9:00～17:00
◇県女性相談センター 026-235-5710 ♡女性の人権ホットライン(長野地方検察局) 0570-070-810
♣塩尻警察署(生活安全課:DV相談) 0263-54-0110



～防災・復興に向けた男女共同参画社会へ～

地区防災に活躍する女性消防隊への取材から

奈良井女性消防隊

設立の趣旨と活動の目的

奈良井宿は歴史ある宿場町で昭和53年に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された地域です。男性の消防団員だけでは昼間留守になりがちのため、まず初期消火が重要と平成4年に女性消防隊を立ち上げました。地域全体の防火意識を高めることも大きな目的でした。



「どんな活動をしていますか？」

現在隊員は51名で12班に分かれ、月に一度夜警をしています。一人暮らしのお年寄りには、災害の時に「近くに隊員が居る」という安心感を持ってもらうため、火の用心を呼びかけながら安否確認をしています。また、消火訓練は年に一度行っています。

その他、昨年の大雪の時は、奈良井区の要請により国道に閉じ込められている方々に炊き出しをしました。また、救急法も日赤の方をお願いして勉強したり、防災対策の先進地視察で高山市、妻籠宿などにも行きました。さらに、女性団体の一つとして玄蕃祭りやアイスクャンドル祭などへの参加協力をしながら、親睦とチームワークの向上にも努めています。

「組織の構成はどのようなになっているのでしょうか？」

家庭の主婦が中心で、55歳定年制でしたが隊員が減ってきたため、現在は定年制を廃止し、60代の方達にも協力していただいています。そこで、一度辞められた方にも声をかけたり、以前隊の役員をされた方にも一般隊員に戻って活動してもらうなどして隊を維持しています。



は神経を使い、街道の数力所に喫煙所を設けています。おかげでこの頃はポイ捨てタバコも少なくなってきました。また、夏の花火は街中ではやらないように呼びかけ、協力していただいています。昭和42年頃に10軒ほどが瞬く間に燃えてしまったという大火があって、火の粉が恐ろしかったこともあり、まずは防火を第一と考えています。

「今、一番の課題と感じていることは何ですか？」

女性も子育てが終わると昼間勤めに出て家に居ない事が多くなってきているため、一番大事な初期消火という目的が果たせるかどうか心配です。

「奈良井宿として特に気をつけていることは？」

奈良井宿は観光客が多いのでタバコのポイ捨てに

地区防災に取り組む高出地区への取材から

高出3区の「支え合い活動」

設立の趣旨と活動の目的

平成18年「ご近所支え合いマップづくりモデル地区」指定を受け活動が始まりました。その背景には、自治会としての地域交流活動の必要性がありました。災害を始め、日常的支援を必要とする人、支援ができる人を把握し、日頃から近隣同士支え合える関係作りを目指して活動する事が目的です。阪神淡路大震災の時に地域の繋がりが希薄だったことで、誰が住んで居るか分からず助けられなかった。これを教訓にして始まりました。



市川景隆副区長さん

今井正範区長さん

「どんな活動をしていますか？」

区民全員に支え合い活動の説明文を配布し、「支え合いカード」に記入の際には班長が一軒ごと説明して回り、「支援して欲しい事」「支援できる事」を記入してもらい、「支え合いマップ」を作成し各戸に配布しています。特に重点として、災害時の安否確認、避難支援、日常生活においては雪かき支援に取り組んでいます。今年からは、子どもの見守り活動も始めていますし、地域全体での防災訓練、支え合いづくり通信の作成配布等の活動をしています。

「組織はどのようなになっているのでしょうか？」

区の役員と民生委員などを中心として「支え合いづくり推進委員会」（構成員は60名）を編成し、事業の計画や方針決定、実施をしてきました。現在は、推進委員会の中に企画広報部会（女性は2名）を設けて、年度毎に具体的な取り組み課題を提案してもらっています。

「今、一番の課題と感じていることは何ですか？」

区には、アパートが多い事もあり、自治会加入率が53%と言う現状で、情報が行き届かない事が悩みです。

課題としては

- ①情報の無い家への災害時の対処方法。
- ②近隣の支え合いではプライバシーの問題があり、支えたい人が居るのにもう一步踏み込めない。
- ③限られた人への負担が大きい。
- ④収集した情報は「個人情報取扱方針」を策定し漏洩防止に努めているが、管理と累積への対処。
- ⑤少ない情報の中での取り組みなので、今後の活動を模索している。少しでも支え合いの輪が広がることを願っています。

抱負としては

- ①今年度公益団体から200万円の助成を受け防災機材を設置する計画があるので、今後女性の意見を取り入れ、災害の時に女性ならではのストレス（共用トイレ・授乳室・生理用品配布時の思いやり・・・）が生じないように対策を講じていきたい。
- ②災害時はもとより、日常的に隣近所がお互いに支え合い、助け合うことで益々住み良い地域になっていけばと思います。
- ③「女性ならではの」の発想も大いに取り入れて地区防災に取り組んで行きたいと考えています。